

# 第4回検討会の概要

## ■日時

令和4年5月24日（火）10:00～12:00

## ■場所

中央合同庁舎3号館6階都市局局議室（Web併用）

## ■出席者（五十音順、敬称略）

### 【委員】

阿久津正典[Web]、坂井文、佐藤留美、出口敦[Web]、榑野良明、根来千秋、広脇淳[Web]、蓑茂寿太郎（委員長）、涌井史郎

### 【事務局】

国土交通省ほか

## ■欠席者（敬称略）

### 【委員】

秋田典子

## ■議事

### （1）とりまとめの方向性（たたき台）

## ■配布資料

- 資料1 検討スケジュール（案）
- 資料2 都市公園の柔軟な管理運営のあり方検討会とりまとめの方向性（たたき台）について
- 資料3 資料2に係る参考事例
- 参考資料1 令和3年度検討会における意見のまとめ
- 参考資料2 都市公園の柔軟な管理運営のあり方検討会とりまとめの方向性（たたき台）【概要】
- 参考資料3 第3回検討会議事要旨

# 第4回検討会の意見概要

## 【とりまとめの方向性全体について】

1. 何のために都市公園の柔軟な管理を進めるのかを明確にする。
2. いかに公園の質を高めるか、それに併せて地域の価値をいかに上げていくかということを念頭に置く。
3. 都市を活性化し、良質なコミュニティを形成し、Well-beingなライフスタイルを実現するコアになるという意識の下で、公園を魅力的にする方策を議論すべき。
4. 公から共のグラデーションの中に公園があるというイメージを共有することが重要。
5. つくり育てるみんなの公園はそのとおりだが、もう一方踏み込んだ強いメッセージを打ち出すことが必要である。
6. 広範囲の方が利用する大規模な公園と、地域の方々が利用する身近な公園といった大きな区分で、担い手、担い手に対するインセンティブ、ルール等の違いが見える整理があるとよい。
7. 街の活力を支える発展的な公園利用のあり方が先に来て、次に、そのために誰もが快適に過ごせる公園管理はどうしたらよいか、その中で民の活力をどう利用するのかという組み立てが大事ではないか。

## 【各項目について】

### 1. 都市公園をより一層柔軟に使いこなす

8. 住民が使いこなす視点と、企業などいろいろなステークホルダーが入ってくる場合の違いが見えるとよい。
9. 緑の基本計画の中で、中長期的な公園利用に関するビジョンを示す必要がある。

### 2. 担い手を広げる・つなぐ・育てる

#### ①民の役割と担い手の拡大

10. まちづくりに活用するという考え方を自治体の方々に理解してもらえるとよい。
11. 地域に合った形の間支援組織を展開していくことが必要である。
12. 指定管理者の公募条件において中間支援組織の役割を求めている例があり、公募のあり方を見直していくことが必要ではないか。
13. 公園の質を高めるという問題意識に対し、小さな公園、使われていない公園を改善する手法の一つとして公園の評価を行うことが考えられる。

# 第4回検討会の意見概要

## ②インセンティブの拡大

14. 指定管理者に行為許可の権限をどこまで与えるべきかという議論の目安となる方向性が示されるとよい。
15. 調達した資金を、公園の新陳代謝のための再投資にできる仕組みが必要である。
16. 地域のために民間が主体となって公園のリノベーション、活用することに対する自治体、指定管理者の意識醸成も必要ではないか。

## 3. 管理運営を進化させる

### ①デジタル化の推進

17. 公園管理者、公園利用者にとってのデジタル化に加え、民間事業者（Park-PFI、指定管理者）にとっても利用実態のオープン化などのデジタル化は非常に重要である。
18. DX化の前提として、公園の情報、台帳のデジタル化が必要である。

### ②都市公園のカーボンニュートラル化

19. グリーンインフラの観点も重要である。

### ③Well-beingへの貢献

20. 安全・安心は、植栽管理の問題とカーボンニュートラルに向けた緑の整備・保全・育成、デジタル化と防犯カメラ、AIなどにも関連する課題である。